

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度技術情報第4号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を取りまとめましたので、防除指導の参考にしてください。

令和元年度技術情報第4号

- 1 対象害虫 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ，チャバネアオカメムシ）
- 2 対象作物 カンキツ，ナシ，カキ
- 3 発生地域 県本土
- 4 発生量 多

5 情報の内容

このことについては、これまでに技術情報第3号（9月2日付け）、病害虫発生予察注意報第2号（9月12日付け）で主にチャバネアオカメムシについて注意を呼びかけてきたが、9月下旬の予察灯の誘殺虫数はツヤアオカメムシの増加も認められた。今後、気温が高いことが予想され、果樹カメムシ類の活動が続くことが懸念されるので、注意が必要である。

6 情報の根拠

- （1）予察灯でのツヤアオカメムシの誘殺虫数は、9月第6半旬頃から各地域で増加している。また、チャバネアオカメムシについても出水市で非常に多い（図1）。
- （2）鹿児島地方气象台が10月3日に発表した向こう一か月（10月5日～11月4日）の気温は高いと予想されていることから、本種の活動がしばらく続くと考えられる。
- （3）ヒノキ球果が餌として適さなくなっており（データ略）、他の餌を求めて果樹園に移動してくることが予想される。
- （4）県内各地で飛来を認める果樹園があり、一部のカンキツやカキで加害が認められている。

7 防除上注意すべき事項

- （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期を迎えている極早生温州、早生温州、カキでは注意する。
- （2）山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来数が多くなる傾向があり、特に防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
- （3）餌となるスギ・ヒノキの球果が台風等で落果すると、果樹園へ飛来する場合があるので注意する。
- （4）飛来を認めた場合、収穫までの期間を考慮して残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤はミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
- （5）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

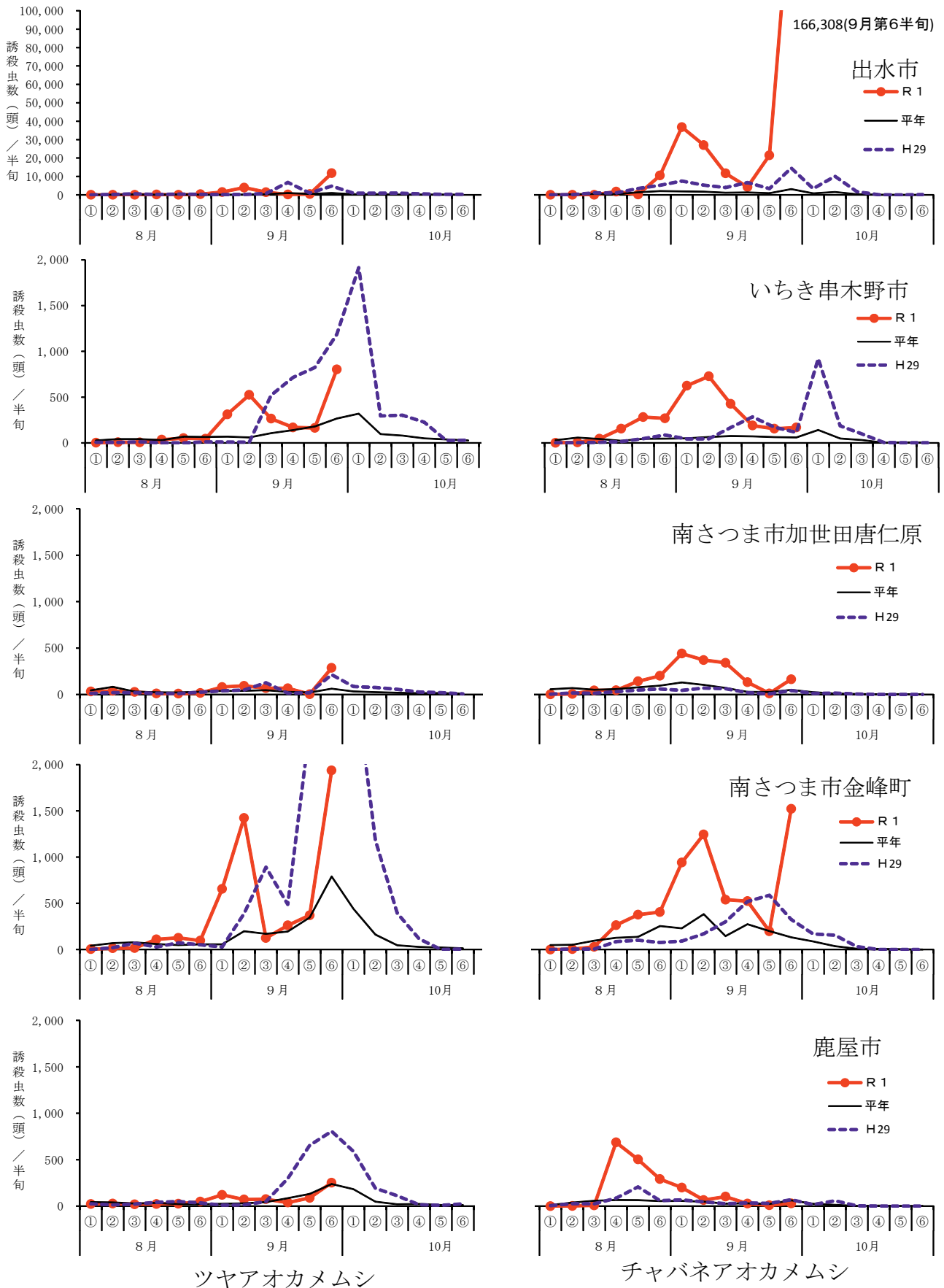


図1 予察灯でのチャバネアオカメムシ誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間、他は過去8年間の平均値。平成29年：直近で被害がみられた年。
 捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯、鹿屋市 補虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯